

くまもと・わくわく基金（市民公益活動支援基金） 平成30年度助成事業公開プレゼンテーション議事録（要旨）

- 1 開催日時：平成30年2月16日（金） 10時30分～
- 2 開催場所：熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと1階大会議室
- 3 市民公益活動支援基金運営委員
 - ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（熊本大学教育学部教授）
越地 真一郎 副委員長（地域づくりアドバイザー）
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会 理事長）
松枝 清美 委員（公募市民）
紫垣 正刀 委員（市民局市民生活部長）
藤川 潤子 委員（市民局市民生活部広聴課長）
- 4 配布資料（事前配布）
 - 資料1 平成30年度助成事業公開プレゼンテーション（次第）
 - 資料2 分野指定助成事業プレゼンテーション発表団体一覧
- 5 プレゼンテーション・午前の部（団体発表6分、質疑応答3分） 及び委員長講評

(UP-1) NPO 法人 熊本高齢社会活性化研究センター ※申請辞退

【事業名】 高齢者のための介護講座

(UP-2) 熊本観光ボランティアガイド くまもとよかところ案内人の会

【事業名】 外国人観光客向けガイド語学研修

<質疑応答>

(越地副委員長)

年齢構成と男女の比率はどのようになっているのか。

(団体)

先ほど件数から言ったように、活動が毎日のようにある。そういった活動に対応できる年齢とでも言うべきか、平均67、68歳ぐらいのセカンドライフになった方々でやっている。80歳近い方も頑張っている。また、男女の比率は男性が5.5割、女性が4.5割。どちらかというと女性の方が元気だが、男性もそれに負けずにいる。

一番大事なことは、セカンドライフということは自分たちの人生経験をもとにご案内しているので、ただ熊本市内、熊本城、水前寺成趣園のパーツ説明をしている訳ではなく、自分自身の体験を基にしてお話しするから、そこでリピーターが増えるということになるだろうと思いつき取り組んでいる。

(中島委員)

とてもパワフルなお話ありがとうございます。ボランティアの方が、高齢化のなか、ご高齢の方を含めてたくさん頑張っておられるが、案内されるボランティアの方を増やしていく方策についてはどのようなことをされているのか。

(団体)

平成 29 年度で 9 期生を募集し、19 名のボランティアが新しく増えている。だが、これと同時に平成 30 年度においても募集していかなければ、数的な対応に耐えられない現状にある。そのため高齢化も出てきているし、できる範囲でやってはいるが、とにかく人的なパイを増やさないといけない。また、去年の新人のなかには、ドイツ語ができる人や、英語ができる人が入ったりしているので、そういった形で新しい人は常に必要だと解釈している。

(UP-3) 城南町子供日舞体験教室

【事業名】城南町子供日舞体験教室

<質疑応答>

(藤川委員)

2 点お尋ねしたい。子供の日舞ということだが、対象の年齢等を教えていただきたい。

(団体)

対象の年齢は 0 歳児からでもいいのだが、今現在参加していच्छるのは 1 歳 8 ヶ月からで、お姉ちゃん達では小学校から下の子や高校生も来ている。一応子供たちを対象にしているが、それに賛同する子供たちであれば、大人になってからも一緒にやっていきたいと思っている。

(藤川委員)

体験教室ということで、体験して発表会という形で 3 年間という説明だったが、その 3 年間実施された後はどのような活動を継続していくのか。

(団体)

この 3 年後は鎌倉時代をしたいと思っているが、助成金がたくさんあったら、次々に江戸時代、明治、大正、昭和とずっとやっていきたいと思っている。子供たちが頑張る歴史の勉強もしてもらえし、礼法等をしていただき、0 歳児、1 歳児、2 歳児なんかはお姉ちゃん達と一緒にやっていくので、急激に成長が早くなったりだとか、お勉強を教え合ったりとかしているの、ご家族の方がすごく喜んでくださっている。

(紫垣委員)

旧城南町以外から熊本市の子供たちが参加することはできるのか。そうであれば、現在何人くらいいच्छるのか。

(団体)

旧城南町以外からの参加も大歓迎である。今は、旧富合町や旧松橋町などの城南町に近い方々が入っていच्छる。ネーミングに「城南町」と入っているが、いろんな方に賛同して欲しいと思っている。

(紫垣委員)

子供たちを集める広報活動はどのようにされているのか。

(団体)

それが一番難しく、今はお母様方たちとの間や文化協会でも広報していただくなどしている。

(UP-4) NPO 法人 あまてらす

【事業名】熊本から、氣功体操の輪を広げよう！プロジェクト

<質疑応答>

(越地副委員長)

団体概要書を見ると頑張る女性を支援する会と書いてあるが、これは女性対象の事業なのか。

(団体)

女性対象ではない。元々団体が発足した時に、女性の眠っている才能を引き出したいと、何か活動したいと思って始めた。女性が元気になれば社会が元気になるのではという最初の思いで立ち上げたが、この氣功体操や体を動かす運動療法などに関しては、男女も問わないし、年齢も問わず、みんなで広げていきたいと思っている。

(紫垣委員)

次を担う指導者の育成と入っているが、3回の講座で指導者が養成できるのか。

(団体)

それはできないと思うので、その先は私たちが継続して練習していきたいと思う。その中から指導者になりたいという人材が見つかればという思いでいる。

(越地副委員長)

この指導者にライセンスなどはあるのか。

(団体)

ライセンスは特にないが、12の型があって、それを全部覚えて、何も見ずにその動きができ、それを実際に教えていただけるということであれば、どなたでもやれると思う。

(中島委員)

概要書を見させていただいて、いま活動に参加している人数が10名ということだが、ホームページも持っていらっしやらないようだが、この活動に賛同して下さる方を広げていくために何かされているのか。

(団体)

ホームページは一応作っており、この氣功体操が主ではなくて、いろいろな農産物を使った料理教室等、そちらの紹介をしている。これから先は、この氣功体操もメインとしてホームページやその他広報をしていきたいと思っている。

(UP-5) NPO 法人 消費者支援ネットくまもと

【事業名】消費者シンポジウム「地域で見守ろう！みんなで防ごう消費者被害」

<質疑応答>

(藤川委員)

2点お尋ねしたい。先程6団体180名と説明されたが、この6団体は県内の数かことか。

(団体)

そのとおり、県内の司法書士会や消費者協会、青年司法書士会などで6団体である。

(藤川委員)

電話相談窓口などをされているが、これは貴団体だけでなく、それぞれの団体でやっているのか。

(団体)

当団体で実施している。

(古賀委員長)

講師謝金と旅費で助成金のほとんど、約8割になる。これは市民からの寄附に基づく助成金だが、そういった意味で、この事業を通じてどういう形で市民のニーズに応えていくのか。

(団体)

シンポジウムはきっかけ作りをやりたいというもので、その後はそういったものが地域で広がっていけばと考えている。日々の活動は、我々の会費の中でやっているが、このシンポジウムに対して助成をいただければと思っている。

(越地副委員長)

弁護士会から20万円とあるが、これは毎年あるのか。

(団体)

決まっているわけではなく、企画に対して、弁護士会から20万円出してもらいたいということで話がついている。

(紫垣委員)

企画というのは、こういったイベントのことか。日常業務に対してではなく。

(団体)

イベントに対してであって、日常業務にはない。

(越地委員)

失礼な言い方になるかもしれないが、今おっしゃったように、イベントがきっかけ作りに過ぎないとすれば、それを日常にいかを広げていくかということがポイントになる。

(UP-6) NPO 法人 ディスカバリーくまもと

【事業名】 熊本城を訪れる外国人を英語でガイドする為の次世代講座

<質疑応答>

(紫垣委員)

事業収支計画に会費が記載されているが、これは高校生から会費を集めるのか。

(団体)

私たちが年会費というものを年に一度、総会の際に一人 4,000 円の会費を回収するので、それを充て込んでいる。

(紫垣)

では、会員から集めたお金を高校生の養成に使うという理解でいいのか。

(団体)

当団体の会員の会費から 10 万円を支出し、生徒たちからお金は取らない。

(松枝委員)

7 回の講座を受けた後で、実際にその高校生たちがどのくらいから案内できるようになるのか。

(団体)

7 回では完全に習得することは無理だと思うため、その後にフォローワークとして、彼らたちに定期的に場所を提供し、さらにガイドが充実するように指導していきたいと思っている。去年の夏に小学生の講座をして、現在もフォローアップ中であり、毎月 1 回、日曜日と土曜日に水前寺に常駐しているので、受講した生徒たちがまたやって来て、自分のやったところを復習したり、新しいところをやるなどしている。

(UP-7) 特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・マスターズくまもと

【事業名】 地元の小中学校への教育活動支援事業

<質疑応答>

(中島委員)

現在、何校に入って活動されているのか。

(団体)

いまは 16 校ぐらい。これに加えて、ニーズがあったので幼稚園や保育園にも入っている。

(越地副委員長)

学校側からの需要があるか、という問題がある。働きかけはどのようにしているのか。

(団体)

働きかけとしては、去年基金からの助成を受けた後に教育委員会へ行き、遠藤教育長や部長、課長に啓発していった。教育長が「全部の学校に入ってもらえるか」とおっしゃったが、人数が足りないのですんなことはできませんと断ったぐらいで、ちゃんと教育委員会にご報告に行き、あとは自分たちなりの啓発活動として、知った校長先生を通じてでしか信頼していただけないだろうと、そういった地道な広がりがある。

(越地副委員長)

需要はあるということか。

(団体)

たくさんある。「そんなことならどんどん来てください」と言われて「いえ、人数が足りません」と返しているような状態。

(古賀委員長)

学校からも喜ばれて、子供たちからも喜ばれているということだが、保護者からの評価があれば教えていただきたい。

(団体)

保護者は、教室の中に入ったりすることなので、その学校が言わない限り、あまり気がつかないと思う。たまに学校新聞や校長先生の頼り等に「こんな方も入っていらっしゃる」ということでお知らせはあっているため、若干は知っていらっしゃる。

【午前の部 講評】(市民公益活動支援基金運営委員会 古賀委員長)

午前の部は6つの団体のプレゼンテーションを聞かせていただいた。

少し前置きになるが、私たちがプレゼンテーションを見るときに、選考基準はもちろんあるが、それと別に大きな枠組みとして3つある。

まず1つが、市民のニーズに対応しているかどうか。ニーズというのは、困っている状態と欲している。どんな困っている状態があって、それをどのように解決、改善しようとしているのかということ。

2つ目が、事業計画。この計画でどのくらい解決、改善ができるのか、それは実現できる内容なのかということを考え、したがって、そこには予算のことも考えることになる。

3つ目が、この事業も回を重ねてきたが、発展、波及、そして拡大の可能性。小さな地域から始まった試みも、熊本市全体に波及するような方向性を持っているかどうか。そのことが、寄附と言いつつも、市民の皆様からいただいた税金と同様であると考えれば、公の予算を使うときの説明になるかと思う。

それを踏まえて、午前の部では6つのプレゼンテーションを聞かせていただいたが、まず子供に関する活動が3団体あった。少子高齢化のなかで子供たちをどのように育てたいか。伝統文化という視点から、あるいは学校の安全・安心という視点から、そして外国の人たちへの外国語のガイド習得の根本にあるのは、外国人の方に出会っても物怖じすることなく、コミュニケーションが取れるかどうかということだと思うが、そういった意味では子供をひとつ重視した考え方である。

もう1つは、生活のなかの安心・安全である。特に熊本地震のあとに、生活というものはかなり厳しくなってきたが、やはり熊本城あつての熊本市であるから、それを活かした明日の熊本づくりに向けた観光であったり、あるいは様々な消費者問題というものが、安心、安全にかかってくるものもあるし、その大前提となるのが、健康ということになるかと思う。そういった意味では、少子高齢化と安心・安全というものが、午前の部で共通する部分であるという感想を持った。

初めに申し上げたが、3つの視点について、特に2番目の事業計画や実現可能性について質問をするため、失礼な質問もあったかもしれないが、そのことについてはお許しをいただき、委員長の講評とさせていただきます。午前の部につきましては、ありがとうございました。

6 プレゼンテーション・午後の部(団体発表6分、質疑応答3分) 及び委員長総評

(UP-8) NPO 法人 くまもとオカリナの会

【事業名】熊本地震復興支援「第3回 くまもとオカリナッセ」

<質疑応答>

(中島委員)

収支の内訳を見ると、参加費からすると 135 名くらいの参加者のようだが、波及性というか、たくさんの方に知っていただく部分で、この人数に対してどのように考えていらっしゃるのかお聞きしたい。

(団体)

とにかくたくさんの方に知っていただきたいということがあり、私としてはまだまだこの人数では満足していないが、会場を借りる時間や演奏時間等を考えると、いっぱいいっぱいという感じ。なので二日間にわたる事業にもっていききたい夢もあるし、熊本城ホール完成に向けて、ぜひ国際豊かなイベントになるような活動をしていきたいと思っている。

(古賀委員長)

こういうかたちで国際的な規模のイベントということだが、少し身近なところで熊本市内の小、中学校に入って一緒にやった実績があれば紹介して欲しい。

(団体)

別事業でいろんなところでワークショップを行っている。なかなか熊本市内ではやっていないが、玉名市、合志市、菊陽町などからお呼びが掛かり、子供たちと一緒に体験授業をやっている。そして最後には一緒に演奏することもやっている。今回のオカリナッセでも、子供たちを前日に及びして、当日一緒にできればいいなと思っている。

(UP-9) NPO 法人 スポレク・エイト

【事業名】ロコトレ健康教室

< 質疑応答 >

(藤川委員)

会員の方が 13 名とあるが、この 13 名の方は指導員ということか。

(団体)

お年寄りが 10 名から 20 名参加されているが、参加がまばらで会費が取れないところがあるため、当事業は平均 13 名としている。あとは出張でも時々行っている。

(藤川委員)

指導員の育成にも力を入れるということだったが、指導員ではないということか。

(団体)

指導員ではない。近くで歩いて来られる方、自転車で来られる方を対象としている。指導者はその中に入っていないくて、あと 2,3 名程度別にいらっしゃる方もいる。

(古賀委員長)

今回の助成申請の目的というのは、ざっくりばらんに言ってロコトレに関する器具を 3 種類買いたいということかと思うが、いまの説明にもあった、これを活用して健康を普及させていく手立てについて教えていただきたい。

(団体)

皆さん若いときに運動会などいろいろされて楽しまれてたと思うが、いままでも活用させて

いただいたお金で器具を購入し、ボール投げや輪投げなどをすると、ものすごくはしゃがれている。ものすごく楽しく地域の人と交わってされるもんだから、やはりストレッチとか体操もいいが、時々こういった運動をさせるとものすごく童心に返られるのでいいなと思い申請した。

(UP-10) 日本コーチ協会 熊本支部

【事業名】 コミュニケーション de 熊本を元気に！！

<質疑応答>

(紫垣委員)

予算の点について 2 点お尋ねしたい。この事業収入の約 6 割を当該事業による参加費としているが、単価としてはいくらぐらいなのか。

(団体)

単価は、3 時間ぐらいの研修の場合が 2,000 円で、夜間に 3 回ぐらいするが、これは 1,500 円でやっている。

(紫垣委員)

もう 1 点が、事業計画のほうでは 10 回事業をされるような記載があるが、支出のほうでは報償費、謝礼金が 6 回になっている。4 回は無償ということなのか。

(団体)

助成対象外経費に 1 万円×4 人で講師謝礼を記載しているが、これは運営委員がみんなコーチの資格を持っており、役員に対する報償費は助成対象外ということだったのでこの記載にしている。

(越地副委員長)

こういうことをビジネスでやっているところもあるが、そことの違いは何か。企業でやっているところもあるが。

(団体)

私もコーチだが、熊本のコーチやそういう勉強をしている者が熊本を元気にするため、一般の方が入りやすくということでやっているため、ビジネスというよりも採算がプラマイゼロになるようにやってきた。

(越地副委員長)

リクエストは結構あるのか。

(団体)

私たちが毎月企画したものに対して募集をしてやるという形でやっている。あと、それを見て講師の依頼がきたりとかはある。

(古賀委員長)

当該事業による収益 292,500 円というのは、延べ参加者数を何人で想定されているのか。

(団体)

25 名まで頑張りたいと思っているので、延べだと 250 名を想定している。

(古賀委員長)

同じ 25 名が 10 回受講するのか。

(団体)

いろんな方をバラバラに入れてというもの。

(UP-11) 熊本の大気汚染を考える会

【事業名】熊本の大気汚染測定運動を通して郷土の環境保全を図る活動

<質疑応答>

(越地副委員長)

かなり専門的な技能、知識を必要とする感じがするが、メンバーの方たちは主にどんな人たちなのか。また、大気汚染というのは熊本だけの問題じゃないが、類似の団体と連携を取っているのか。

(団体)

「大気汚染測定運動東京連絡会」というところにおいて、こういった器具、この中に二酸化窒素を取り込む液体を染み込ませたろ紙が入っており、1 本 200 円するものだが、これを自分の測りたいところや気になるところで測ってもらう。説明書とこのカプセルを送って、会員の皆様がずっと継続して 20 数年間、自分の気になる家のそばなどを測ってもらっているし、それを私たちが集め、一覧表を作って東京に送って、そこで今度は二酸化窒素を取り出す液体を使って、どれくらい汚れているかを測定してもらい、そのデータをいただいて分析している。そんなに私どもも理系の専門家ではない。

(越地副委員長)

似たような団体は全国各地にあるのか。

(団体)

いえ、そんなにない。東京はものすごく活発で、やっぱり各地区に支部みたいなものがあって、それは大きな助成金ももらっておられる。他には熊本と、あとそんなにはないと思う。これだけ 25 年やっているところは熊本だけだと思う。

(古賀委員長)

他に質問がないようなので、何か付け加えることがあれば。

(団体)

私どもの会員は、少しずつ高齢化しており、引退されてちょっと会員が少なくなっている。市民の皆さんに関心を持っておられる方はたくさんおられると思うので、この助成金をいただいて体験していただき、いかに「一緒にやりましょう」とその輪を広げるか、それをきっかけに啓発活動をしていきたい。また、十数年前は画図小学校の 3 年生全員でやっていただいて、興味・関心をもっていただいたこともあるので、もう一度そういった子供たちに関心をもってもらうような活動をしていきたいと思う。

(UP-12) NPO 法人 身近な犯罪被害者を支援する会

【事業名】 犯罪被害者等への理解と被害に遭われた方への相談窓口の周知対策

<質疑応答>

(藤川委員)

講演と講話ということで、東区、北区、西区、南区と 4 箇所ですされるようだが、中央区が入っていないのには何か理由があるのか。

(団体)

いまここに写真があるが、12月2日に中央区のパレアホールでさせていただいた。そこで一応中央区は済んだのだが、それをやった結果、皆さんがこういった取り組みは各地区でもできないのかと、皆さん知りたがっているところもあるし、まったく知らない人が多いので、だからぜひ広がるようにこういう活動をして欲しいと、啓発活動をぜひお願いしますという申出が各地区の方からあったため、やりたいと思っている。

(藤川委員)

その参加者数は、どれぐらいお集まりになられたのか。

(団体)

だいたい 80 名前後だった。スタッフ 15 名ぐらいを入れて約 95 名の参加でやった。そこで各校区の団体の代表の方にはある程度参加いただいたので、その繋がりを使って各地区で出していきたいと思っている。

(越地副委員長)

この活動を広く知ってもらうために 4 箇所で行いたいということだが、実際の支援対象者にはどうやって接触するのか。なかなか難しいと思うが。

(団体)

被害者の方との接触は、いまのところ電話相談などで。

(越地副委員長)

電話あたりは、何がきっかけでどうやって掛かってくるのか。

(団体)

人づてにこう聞いたからということで掛かってくることもある。まだ普及が少ないため、その辺ではかなり掛かってくる率も低く、実際には未だそういった悶々として悩んでいらっしゃる方はたくさんいらっしゃることを聞いているわけだが、そういった方に、ぜひスムーズに安心して相談できる窓口であることを理解していただければと思っている。

(越地副委員長)

チラシか何かに電話相談の番号が書いてあるのか。どこかの家か何かが相談の窓口になっているのか？

(団体)

個人の家ではなく事務所でやっており、チラシ等に電話番号を書いていて、お越しいただいても結構で、すべて無償でやっているのだから、安心してご相談できるというところ。

(UP-13) 特定非営利活動法人 優里の会

【事業名】 里親制度の普及啓発と支援を強化するための事業

<質疑応答>

(古賀委員長)

平成 25 年に設立され、その前からの活動があるのでずいぶん努力されてきたと思うが、現実問題として国は里親制度をもっと拡充したいとしているなか、この 5 年間の取り組みで、率直に申し上げてどういう成果があったか。里親が何人ぐらい増えた、市民の意識啓発がここまで進んだというところが何かあれば教えていただきたい。

(団体)

私たちは単独で活動しているというわけではなく、結局 PR 活動とかそういったものをさせていただいている。里親には登録してなるのだが、これは行政のほうに担っている役であって、そのあたりと協同してやるというかたちになっているので、私たちが里親を何人登録させたといった、ダイレクトにはっきりわかる部分はないが、以前の設立当初に比べると、若干いま里親が増えつつあるというところはある。ただ今後国が目指す施設とのバランスを考えたときに、3分の1程度にしたいということだが、これには3倍の増やし方をしていかないといけないので、いまのままの取り組みではまだまだ足りないという状況があるかと思う。

(越地副委員長)

今回は熊本市への助成申請だが、本来貴団体の活動は、市という枠組みよりも全県的な取り組みかと思う。この会員の人たちも全県的な活動という捉え方でいいか。

(団体)

そのとおり、熊本市の部分もあるし県のほうからもお願いされている部分もある。

(UP-14) うえき自然塾

【事業名】 里山で親子自然体験活動

<質疑応答>

(紫垣委員)

年間を通して事業を展開されるが、参加人数は何人ぐらいか。

(団体)

今年度は 2 月までのところで、1 番多いときで 100 名、少ないときで 52 名だった。最近は、大体平均して 60 名ぐらいは参加がある。

(古賀委員長)

田原校区での活動ということだが、田原小学校との連絡や協働はあるのか。

(団体)

だいたい毎年 1 回あるいは 2 回ぐらいは、子供たちが地区の学習の一環でうちに来ることがある。それから、田原のいわゆる文化遺産を見て回るものも小学校で企画されているので、その一環としてうちに立ち寄るとか、そういうときにこっちで焼き芋を準備してみんなで食べ

ようということをやったりだとか、いろんなことをやっている。

(UP-15) ことう文庫の将来を考える会

【事業名】 ことう文庫がみんなの居場所です

<質疑応答>

(越地副委員長)

大人などいろんな世代の人も巻き込みたいとなると、文庫の中身も子供向けだけじゃなくて、各世代向けの本もそろえてあるのか。

(団体)

メインは子供向けの本だが、大人の本も一部ある。直木賞を取ったような本や生き方の本など、大人の人も興味を持つような本も一部揃えている。割合的には一割ぐらいかと。

(越地副委員長)

学校図書館があるが、それとの連携、あるいは持ち味はどの辺にあると思っているか。

(団体)

学校の図書は、非常に本が古くなっている部分もあって、そここのところをこちらでは、より新しいものや古典といわれる絵本でも新しく刷られたものを入れるように心掛けている。また、土曜日は学校の図書館には行けないので、土曜日の開館で子供も地域の人も来ていただけるようにさせていただいている。

【午後の部 総評】(市民公益活動支援基金運営委員会 古賀委員長)

本日は、午前、午後と全部で14団体からの発表をいただいた。午前の部は、昼前に私の方から簡単な講評をさせていただいたので、今回は午後の部についてお話しさせていただく。

前置きとして、私たちがこの市民協働というものをどう考えているか、あるいはどういったことを皆さん方に期待し、また、どのようにこういう選考のものさしにしているのか。それが3つある。

1つ目は、皆さんの活動が、市民ニーズに的確に答えているものかどうか。市民ニーズという言葉はわかりやすく言えば、「困っていること」。どういう困っていることを解決、改善するための提案なのか。

2つ目は、事業計画。大変失礼な言い方だが、皆さんは事業計画を作られることは割と苦手でであり、大変だったと思う。ただ、事業計画を私たちが見るときには、先ほどの解決、改善に向かうステップがきちんと踏まれているかどうか、実現に向けたプロセスになっているかどうか、そこを判断する。

3つ目が、こういった事業に取組まれた後のこと。どういうふうな発展、あるいは拡大、波及の方向性が見られるかどうか。なかなか「可能性」ということで留まるかもしれないが、私たちはそういったことをしっかり受け止めたいと思っている。

さて、午後の部だが、まず1つ言えることは、それぞれの団体の専門性を活かした提案というのがひとつの特徴になっている。具体的に言うならば、オカリナの会様でいえば、オカリナの演奏といった音楽の専門性。スポレク・エイト様の場合で言うと、スポーツ指導者という立場。そして、コーチ協会様の場合には、コーチング。こうしたそれぞれの専門性を活かして、それをどういうふうに普及させていくのか、市民の生活の中で自分たちを守るために、音楽やスポーツやコーチングというコミュニケーションスキルがどう生きていくのか、そういったことを普及したいというミッションが伺われた。

2つ目の特徴は、安心・安全の追及。特に、全国的な課題とともに、熊本の場合は、2年前の熊本地震

後の市民生活が極めて厳しい状況にあるということが前提にあるが、例えば大気汚染、あるいは身近な犯罪被害者、こうしたことは、安心・安全に関するものと言っていいかと思う。

また、優里の会様の場合で言えば、児童福祉。これは本当に子供の貧困とともに、やはり家庭、家族というもののつながりが、今日、非常に厳しくなっている。おそらく熊本地震の後、離婚率も少しだろうが高くなるだろうという事が予想されているわけだが、そうした中で子供たちの最善の幸せって何なんだろうか？ そういったところの視点かと思う。そういった意味では、優里の会様、うえき自然塾様、あるいは、ことう文庫様、この3つを通じて言えるのは、それぞれが子供たちのどういう困った状態を解決するか、という事であり、家庭における厳しい環境、そしてうえき自然塾様の場合で言うと、自然体験というものが根本的に不足しているため、そこの困った状態をどう地域で解決するか。そして、ことう文庫様の場合でいうと読書だが、本当に本離れが非常に大きい。小学生が最も読書率が高く、中学、高校といくと限りなくゼロに近づいていく中で、子供たちのしっかりした読書という習慣、もっと言えば、読書することによって得られる喜び、こんなものを伝えたいという気持ちが伝わってきたところだった。

以上、もう一度申し上げるならば、午後の提案を通じて言えることは、1つ目がそれぞれの団体の専門性をどう活かしていくのか？ それをどう波及させていくのかという観点からのテーマ。そして2つ目が安心・安全というものをどういうふう to 実現し、その中で皆さんたちの団体が、市民生活をサポートしていくことができるかという可能性の提案。そして3つ目に、次代を担う子供たちにとって必要な要件が、学校教育の中では十分に対応できないなかで、それを地域や NPO 法人がどう支えていくのか。そういう提案であったと理解している。

本日は長時間にわたって、熱心なプレゼンテーションをいただきましてありがとうございました。これをもちまして私の総評とさせていただきます。ありがとうございました。

(終 了)